



アンサンブルグループ奏楽(そら)の演奏



杉田かおる氏



環境省釧路自然環境事務所長の岡野隆宏氏

タンチョウ再発見から100年記念フォーラム

2月8日に総合センター多目的ホールで「タンチョウ再発見から100年記念フォーラム」が盛りだくさんの内容で開催され、村内外から200名以上が参加されました。フォーラムでは、1980年に鶴居村でも撮影されたドラマ「池中玄太80キロ」に出演された杉田かおる氏と環境省釧路自然環境事務所長の岡野隆宏氏による基調講演の他、幌呂中学校の学習発表やパネルディスカッションをはじめ、ミニコンサートやタンチョウ保護に貢献された方々への感謝状贈呈式等が行われました。

岡野所長からはタンチョウの給餌の意義や国の方針、タンチョウ生息地分散の重要性等をわかりやすく説明していただきました。給餌は個体数維持のための暫定的な取組であること、これまでの給餌量削減により適正な給餌量になってきていること、また今後は個体数を維持しつつ生息域を分散させ集中化により懸念される感染症拡大等のリスクを軽減していくことが重要とのお話でした。

タンチョウ再発見から100年という節目の年に、多くのみなさんと時間を共にできたことに感慨もひとしおです。これからの100年がタンチョウにとっても鶴居村にとってもよりよい環境となるよう後世へ引き継いでいきたいと思います。



幌呂中学校の生徒2名が村をPRする商品として試作したバスボムを会場で実演。発泡し終わると中から小さなつるぼーが出てくる優れモノ。また、タンチョウのえさ用にデントコーンをほぐす作業を杉田かおる氏に体験していただきました。杉田さんからは「子どものときの体験は大人になって必ず生きてくる」と力強い激励の言葉をかけていただきました。



5名のパネリストが「タンチョウとの共生のあり方」をテーマに意見をかわしました。タンチョウ保護増殖検討員の黒澤信道氏から「給餌が国や道の事業になり、地域住民にとってタンチョウが遠い存在になった面がある。住民がしっかりとかわることが重要」といった指摘があったほか、今年度で閉校となる幌呂小学校PTA会長の大瀧篤史氏からは「閉校後も給餌をはじめタンチョウにかかわる活動を継続したい」、酪農家の齊藤和弘氏からは「農業被害の防止だけでなく、タンチョウの存在が酪農にメリットをもたらすしくみが必要」といった意見が述べられました。最後に村長が村の考えを述べ、力強い言葉で締めました。

記事:鶴居村教育委員会社会教育課